

令和6年度学校自己評価システムシート（県立川越工業高等学校 定時制）

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 学業に意欲を持たせ、基礎学力、技能の定着を図る 2 地域や家庭と連携した生徒指導・生徒支援を推進する 3 社会の中で自己実現できるキャリア教育を推進する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	19名

学校自己評価								学校関係者評価			
年度目標						年度評価(1月21日現在)		実施日	令和7年1月31日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等			
1	【現状】 ・多様な学力の生徒が在籍している。 ・ICT機器の活用は定着しつつある。 【課題】 ・授業や課外活動に自主的に取り組む態度の育成。 ・学習サポーターの効果的な活用。 ・現状と今後を見据えた教育課程の再編成。	・魅力ある教育活動の展開 ・基礎学力、技能の定着	①授業改善とカリキュラムマネジメントを意識した指導計画の作成と実践 ②教育課程の点検と見直しの着手か。	①学校評価アンケート、職員面談等で生徒の学習意欲の向上が確認できたか。 ②教育課程は適切に編成されたか。	授業・学校生活満足度は88.1%(R5:91.5%)、登校・出席意識82.1%と高い水準を維持している。 ①生徒のレポートや提出物の期限意識は85.1%(R5:80.5%)。 ②募集定員に合わせ、工業技術科の教育課程を大きく改訂した。 ①4回の追認定試験の機会を設定。 ②4名の学習サポーターを採用。授業支援者として活躍した。 ③第三種電気主任技術者試験をはじめとする各種資格試験に生徒が挑戦、合格者を表彰した。	A B	①学校生活満足度を維持するためには、今後ともわかる授業、充実した授業づくりなどの授業改善が求められる。 ②今後は入学生に向けた円滑な実施が課題。 ③学習サポーターの効果的な活用に向けた工夫改善。 ④各種資格・検定受験の奨励と合格者に対する表彰。	○生徒が落ち着いている。先生と生徒の信頼関係だと思う。引き続き生徒目線に立った教育活動を進めてほしい。 ○学習サポーターの制度は、大学生・本校生徒双方に良い影響がある。 ○資格取得の意識が高まっていることは大変良好な傾向。工業高校であることを生かし、ジュニアマイスター制度を意識させることも検討してほしい。			
2	【現状】 ・専門員や外部機関からの手厚い支援により生徒指導を展開している。 ・日本語を母語としない入学生が増加している。 【課題】 ・特別支援コーディネーターや専門員、外部機関との効果的な連携と指導・支援方針の共有。 ・家庭、学校関係者や地域に向けた教育活動の理解促進。	・家庭、地域、関係機関と連携した教育相談、生徒支援 ・日本語を母語としない生徒に向けた日本語教育	①生徒に関する正確かつ詳細な情報の一元管理と教職員間での共有。 ②家庭・地域に向けた本校情報の正確な伝達 ③SSW、SC、巡回支援員と連携した指導と支援	①「生徒情報共有シート」の内容の充実と活用が図られたか。 ②授業参観者、Webサイト閲覧者、保護者メール登録者は増えたか。 ③教職員と専門員との共通理解が図られたか。	①日本語を母語としない生徒の日本語能力が向上したか。 ・漢字理解力 ・日本語検定受験者	A B	①特別支援コーディネーターへの迅速な情報提供と、個別の支援・指導計画の作成。 ②公式Instagramの組織的な運営体制づくり。 ③Webサイト、SNSと関連した学校案内パンフレットの編集。 ④日本語を母語としない生徒の入学は増加傾向。日本語支援員と教員の更なる連携指導が求められる。	○生徒の発表能力は高い。積極的に地域に出向いて様々な分野で活躍させてほしい。 ○SNSを活用した情報発信で、社会における定時制課程への理解を更に高めてほしい。 ○生徒・保護者は安心で安全な学校を願っている。 ○海外から来日した生徒と共に学ぶ機会はとても貴重。生徒同士の異文化交流を進めてほしい。			
3	【現状】 ・基本的生活習慣の定着は向上が見られる。 ・卒業後の進路選定に向け、粘り強い指導が続けられている。 ・就職希望の他、進学を希望する生徒も一定数存在する。 【課題】 ・生徒の自立を目指した教職員分掌間の連携指導。 ・持続可能な挨拶運動、巡回指導の計画と実施	・基本的生活習慣の定着と社会性の向上 ・生徒の進路実現	①登校時における挨拶運動 ②「成長への行動指針」を生徒・教職員の共通理解とする生徒指導。 ③時機に合わせた学校内外における巡回指導の実施	①②出欠等が改善したか、規律ある授業が展開できたか。 ①②社会人にふさわしい挨拶・言葉遣い・態度への変容が見られたか。 ③課題のある生徒に適切な指導・助言が行われたか。	①自己理解の深化と社会参画に向けた意欲が高まったか。 ②③生徒の進路実現ができたか。 ②③進路未定者数の減少が図られたか。	卒業後の社会参画に向け丁寧な指導が行われている。 ①②挨拶運動は年間を通して実施。 ①出席率は89.2%(R5:87.2%)、遅刻率は3.3%(R5:6.4%)と意識は向上している。 ③教職員巡回指導期間を設定し、生徒の課題に合わせ組織的に行動した。 ①各種進路ガイダンスと個別面接指導により生徒の自己理解を深めた。 ②③進路状況は25名中、就職14名(学校斡旋11、自己求職3)、専門学校6名。(1/10現在)	A A	①持続可能な挨拶運動体制の維持。 ②的確な生徒観察と社会性を高めるための適切な個別指導。 ③地域で活躍する専門家や協力企業を招いたキャリアガイダンスの継続実施。 ④生徒の自己理解を深めるための就職支援アドバイザーと教員の連携による個別面接指導。	○基本的生活習慣の確立、健康の維持管理は社会生活を送る上での基盤である。 ○日々の先生方から生徒に向けた声掛けは生徒にとって励みとなっている。 ○個々の条件に応じた進路指導は大変であるが、引き続き生徒の進路実現を目指した丁寧な指導を期待する。		